

「子ども講座における国際交流」

～異文化交流を通して人権意識を育む～

北九州市立医生丘市民センター 館長 井上 好二
職員 立花 瑞穂

(1) 事業名

子ども講座「国際交流」

(2) 事業の目的

地域の子どもたちと地域在住の外国人留学生との間で異文化交流を行い、言語や生活習慣等の違いを超えたふれあいによってお互いの文化を理解し、人権意識を育むとともに多様性社会・国際社会に順応できる人間形成の一助となることを目的とする。

(3) 事業の主体

医生丘市民センター

(4) 連携・協力機関・団体等

- ①医生丘小学校 ②日本語教室（国際交流ボランティア・R I S I N G）
- ③産業医科大学ボランティア部 ④折り紙教室（市民センタークラブ）
- ⑤大浦むつみ会（老人会）

(5) 事業予算

地域・子ども交流事業費

(6) 実施に至る経緯

①子ども講座の開設

- 公立小中学校における学校週5日制の導入により、子どもたちが家庭や地域で過ごす時間が増えることとなった。一方、少子化・核家族化が進む中で子ども同士のふれあい、子どもと地域のふれあいが希薄になってきている。
- そこで、子どもたちに異年齢集団の中でボランティア活動や生活体験、スポーツなどを通じて、さまざまな人々との交流を体験させ、創造性、思いやりの心、たくましく生きる力などを養うことを目的とした子ども講座を開設することとなり、学校や地域、ボランティアの協力を得て、平成8年度から実施している。

②子ども講座における国際交流の開始

- 地域の近隣には産業医科大学、九州共立大学、北九州学術研究都市などがあり、外国人留学生・研究者が多い。
- 地域には公営賃貸住宅、民間賃貸住宅が多く外国人居住者が多い。
- 家族で来日している人も多く、その子どもが地域の小学校に通っている。

- 当センターにボランティアによる日本語教室が平成9年から開設されている。
- このような地域環境・状況であることから、平成19年度より子ども講座の中に「国際交流」を採り入れることとなった。

(7) プログラム作成の視点

- ①地域に在住する外国人とのコミュニケーションを図ることによって、お互いの理解を深めること。
- ②地域の高齢者とふれあうことによって、年長者を大切にすることを育むこと。

(8) 事業の内容

場 所 医生丘市民センター 多目的室

日 時 毎年6月頃 10:00～12:00

参加者 医生丘小学校児童(約40～70名) 留学生(4～6名)

日本語教室ボランティア(3～4名)

子ども講座学生ボランティア(3～7名)

老人会ボランティア(8～10名) 折り紙教室(6名・25年度)

内 容

①留学生による自国文化の紹介

○母国の紹介(手作り地図やスライドを使用しての紹介)

○母国の遊びの紹介

- ・フランス(悪魔のしっぽ) ・タイ(ハンカチ落としのようなゲーム)
- ・韓国(すごろくのようなゲーム) ・台湾(手足を使ったじゃんけん)
- ・中国(鳶から親鳥がひよこを守るゲーム)

○民族衣装の紹介

- ・インド(サリー)・ベトナム(アオザイ)・ウズベキスタン(ヤハタク)

○母国の紙幣の紹介

○母国の歌の紹介



②日本文化の紹介と交流

- 市民センタークラブ 折紙教室 による「折紙」の紹介と作製
「くるくる」・「羽ばたく鳥」・「かぶと」・「犬」・「紙飛行機」



- 老人会の指導による「昔遊び」で交流

「割り箸鉄砲」・「新聞紙折紙」・「牛乳パック竹とんぼ」・「ぶんぶんごま」



(9) 事業の成果

- ①地域に居住している留学生と地域の子どもたち・年長者とのコミュニケーションが図れた。
- ②外国人留学生の日本語使用の実践の場所ともなっている。
- ③子どもと年長者との世代交流も図れた。
- ④異年齢の子供たちの交流も図れた。
- ⑤夏祭りや文化祭の開催時にも来てくれるようになった。

(10) 今後の課題

- ①留学生の入れ替わりが早い（1～2年）のと国が偏る年がある。
- ②来日してまだ日が浅く、日本語がままならない中、コミュニケーションをとるには「遊び」・「ものづくり」・「運動」などが効果的であるが、そのツール（昔遊び、折り紙等）を検討していく必要がある。
- ③お互いに伝え合う異文化の内容の検討。
- ④事前に子どもたちに対象国の歴史や文化を勉強させる方法・時間の検討。

問い合わせ先 北九州市立医生丘市民センター
〒807-0873 北九州市八幡西区千代ヶ崎一丁目 12-15
電話：093-691-2205 FAX：093-691-2231